

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 ロビンフード

会社名 住友化学株式会社

住所 〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号

担当部門 アグロ事業部 お客様相談室

電話番号 0570-058-669

推奨用途及び使用上の制限
使用上の制限 農薬以外、使用しない。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

エアゾール	区分1
急性毒性（吸入：蒸気）	区分4
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（麻酔作用）
水生環境有害性 短期（急性）	区分2
水生環境有害性 長期（慢性）	区分2

※記載のない危険有害性は、区分に該当しない、或いは分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報

H222 極めて可燃性の高いエアゾール

H229 高压容器：熱すると破裂のおそれ

H332 吸入すると有害

H336 眠気又はめまいのおそれ

H401 水生生物に毒性

H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

予防策 P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P211 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。

P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。

P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

- P271 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 P273 環境への放出を避けること。
対応 P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 P391 漏出物を回収すること。
保管 P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 P405 施錠して保管すること。
 P410+P412 日光から遮断し、40℃を超える温度にばく露しないこと。
廃棄 P501 内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

**GHS分類に関係しない又は
 GHSで扱われない他の
 危険有害性**

容器を高温に曝すと破裂、火災を起こすおそれがある。
 皮膚、粘膜に直接噴霧すると炎症や凍傷を起こすおそれがある。
 ジメチルエーテルガスは低く遠くへ流れ、危険範囲が広がり、風下の遠い火源からも引火することがある。
 ジメチルエーテルガスは空気より重く、低い場所に滞留して酸素不足を引き起こす。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名または一般名 (不純物及び安定化添加物を含む)	濃度又は 濃度範囲 (%)	化学特性	CAS番号	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
噴射物					
フェンプロパトリン	0.020	C ₂₂ H ₂₃ NO ₃	39515-41-8	3-4573	4-(7)-546
プロピレングリコールモノメチルエーテル	>50.0	C ₄ H ₁₀ O ₂	107-98-2	2-404, 7-97	10-4008
噴射剤					
ジメチルエーテル	<50.0	C ₂ H ₆ O	115-10-6	2-360	既存

4. 応急措置

- 吸入した場合** 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合** 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 眼に入った場合** 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合** 気分が悪いときは医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項 医療スタッフに物質が何であることを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。

医師に対する特別な注意事項 症状に応じた治療を行う。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 散水、泡、二酸化炭素、粉末

使ってはならない消火剤 棒状水

火災時の特有の危険有害性 極めて可燃性の高いエアゾール
高圧容器：熱すると破裂のおそれ
燃焼または高温により有害ガス（一酸化炭素など）を発生する。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火水や希釈水の流出により環境汚染を引き起こさないように注意する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 防火服、耐熱服、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム手袋、ゴム長靴

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置 作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、風上から作業する。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項 環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 安全にできるなら漏洩を止める。
漏出物をできるだけ回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
環境への放出を避けること。

保管

火気厳禁！

揮発性があるので、換気の良い涼しい場所で施錠して保管する。

直射日光を避け、保管場所を40℃以下に保つ。

貯蔵設備には静電気対策を施し、容器の帯電を防止する。

8. ばく露防止及び保護措置**設備対策**

局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。

作業場所ではシャワー、手洗い、洗顔設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度

情報無し

許容濃度ACGIH プロピレングリコールモノメチルエーテル
TWA 50ppm STEL 100ppm (A4)**生物学的許容値**

情報無し

保護具**呼吸用保護具** 必要に応じて、保護マスクを使用する。**手の保護具** 必要に応じて、保護手袋を使用する。**眼、顔面の保護具** 必要に応じて、保護眼鏡を使用する。**皮膚及び身体の保護具** 必要に応じて、保護衣服、安全靴を使用する。**9. 物理的及び化学的性質****物理状態・色**

エアゾール

臭い

エーテル臭

融点/凝固点

情報無し

沸点又は初留点及び沸点

情報無し

範囲**可燃性**

きわめて引火し易い。

爆発下限界及び爆発上限

上限界：ジメチルエーテル：27 vol%；

界/可燃限界

下限界：ジメチルエーテル：3.4 vol%

引火点

ジメチルエーテル：-41.1℃

噴射物：30.9℃（タグ密閉式）

自然発火点

情報無し

分解温度

情報無し

pH

情報無し

動粘性率

情報無し

溶解度

水：可溶

n-オクタノール/水分分配係

情報無し

数(log値)**蒸気圧**

情報無し

密度及び/又は相対密度	情報無し
相対ガス密度	情報無し
粒子特性	情報無し

10. 安定性及び反応性

反応性	混触危険物質に触れると反応するおそれがある。
化学的安定性	圧力容器内では安定である。 容器から噴射後、ジメチルエーテルはガス化して拡散する。 プロピレングリコールモノメチルエーテルは容易に蒸発する。
危険有害反応可能性	ジメチルエーテルガスは空気と混合し、火気等の着火源があればきわめて容易に引火爆発する危険がある。 ジメチルエーテルガスは酸化剤と反応する。 プロピレングリコールモノメチルエーテルは酸、酸化性物質と発熱反応する。
避けるべき条件	高温、火気、静電気
混触危険物質	酸化剤、酸
危険有害な分解生成物	燃焼により有毒ガス（一酸化炭素など）を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性	情報無し
経口	情報無し
経皮	情報無し
吸入	プロピレングリコールモノメチルエーテル：マウスの雄のLC ₅₀ 6038～7559ppm/6H=7395～9258ppm/4h (GLP準拠 (SIDS (2001)))
皮膚腐食性/刺激性	情報無し
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	情報無し
呼吸器感作性	情報無し
皮膚感作性	情報無し
生殖細胞変異原性	情報無し
発がん性	情報無し
生殖毒性	情報無し
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	ジメチルエーテル：ウサギ、イヌへの高濃度吸入暴露により、麻酔作用、血圧低下、心拍数減少が認められた。 ヒトでの高濃度吸入暴露により意識喪失、視野喪失、痛覚喪失が認められた。 プロピレングリコールモノメチルエーテル：ラットおよびマウスでの吸入暴露およびウサギでの経皮投与により、一過性の起き上がり反射および外部刺激に対する反射の喪失などの麻酔作用が認められた。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	情報無し
誤えん有害性	情報無し

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

短期 (急性)

フェンプロパトリン :

魚類 コイ LC₅₀ (96時間) 0.015 mg/L

ニジマス LC₅₀ (96時間) 0.00075 mg/L

甲殻類 オオミジンコ LC₅₀ (48時間) 0.080 mg/L

藻類 緑藻 ErC₅₀ (0-72時間) >0.0103 mg/L

長期 (慢性)

情報無し

残留性・分解性

情報無し

生物蓄積性

情報無し

土壌中の移動性

情報無し

オゾン層への有害性

いずれの成分もモントリオール議定書付属書にリストされていない。

1 3. 廃棄上の注意

化学品 (残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物

内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

容器内の残余は、火気のない屋外で噴射音が出なくなるまで内容物を完全に排出する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 1950

国連分類 2.1

品名 (国連輸送名) AEROSOLS

容器等級 非該当

海洋汚染物質 該当

国内規制

陸上規制情報 消防法、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法等に該当する場合は、それぞれの該当法律に定める運送方法に従うこと。

海上規制情報 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空規制情報 航空法に定めるところに従うこと。

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 直射日光を避け、40℃以下で輸送する。 移送時にイエローカードの保持が必要。
緊急時応急措置指針番号	126

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）

非該当

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物

別表第9の496 プロピレングリコールモノメチルエーテル
ジメチルエーテル(2026年4月1日以降)

名称等を通知すべき危険物及び有害物

別表第9の496 プロピレングリコールモノメチルエーテル
ジメチルエーテル(2026年4月1日以降)

毒物及び劇物取締法

非該当

船舶安全法

引火性ガス

航空法

引火性ガス

消防法

危険物第四類引火性液体、第二石油類水溶性液体、指定数量2000L、危険等級Ⅲ

高圧ガス保安法

可燃性ガス(一般高圧ガス保安規則第二条第一項)

16. その他の情報

引用文献

- 1) JIS Z 7252 : 2019
- 2) JIS Z 7253 : 2019
- 3) 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)
- 4) ACGIH
- 5) メーカーSDS

声明：本SDSは、現時点で入手出来る資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、情報の正確さを保証するものではありません、すべての化学品には未知の有害性がありうるため、

取扱には細心の注意を払ってください。